

46 肝左葉の mass であり、単純 CT にて肝臓とほぼ同等の濃度。  
造影にて強く増強され、遅延像ではふたたび肝臓と同程度の濃度となっている。  
SPIO を用いた MRI では腫瘍内部に Kupffer 細胞の存在が認められる。  
以上より FNH を疑う。

- a (×) 単発例がおおい
- b (×) 皮膜はつくらない
- c (×) 過形成であり、腫瘍性病変ではない
- d (○)
- e (×) 女性に多い

47 拡散強調画像に対する設問

- a (×) 高信号を呈するのは spinal cord である。
- b (×) 嚢胞であれば右画像にて信号が制限されるべきである。
- c (○) 右の画像のほうが全体の信号が低下しており、b factor の大きな画像と考えられる
- d (×) 脾臓は正常でも比較的拡散制限の大きな臓器であり、正常と考える。
- e (×) 拡散強調画像では saturation pulse は印加していない。

48 リザーバー留置前の血行改変に対する設問

- a (○) 塞栓すべきである
- b (×) 通常塞栓しない
- c (×) 通常塞栓しない
- d (○) 副左胃動脈の描出が見られ、塞栓すべき動脈と考える
- e (×) 通常塞栓しない

49 腹部エコー画像に関する設問

エコー画像 1 枚のみで判断する必要があり、やや不適切問題と考える。

- a (○) 肥厚してみえるが、生理的に厚く見える場合もあり、1 画像のみでは評価困難
- b (×) 描出されていない
- c (×) 限局した低エコーの部分は上腸間膜動脈と考える。
- d (×) 上記のように描出されている。
- e (△) エコーレベルが上昇してみえるが 70 才であれば脂肪浸潤をきたしている場合があり、あきらかに異常とはいえない。

50 肝門部～膵尾部病変の PET/CT 画像に関する設問

嚢胞成分の内部に結節が存在し、同部位に FDG の異常集積をみとめる。

低吸収の部分には集積を認めず、液体成分ないし粘液成分と考える。

- a (×) 仮性嚢胞には通常 FDG の高集積は認めない。
- b (×) 通常型膵癌としては低吸収部分が非典型的である。
- c (×) 漿液性嚢胞腺腫は通常微細な嚢胞が集簇した形態を呈し、通常 FDG は高集積をみとめない。
- d (○) もっとも考えられる
- e (×) 粘液性腺癌は細胞密度が少ないため通常 FDG-PET 上は集積が低い場合が多い。

以上、解答 46～50 は馬場眞吾会員（九州大学）